

特 240

467

語學教育の合理化

ドクトル・オブ・  
フィロソフィー

竹原常太述



始



目次

(1)	語學教育合理化運動……………	一
(2)	米國教育博識會の合理化具體案(三大原則)……………	二
(3)	基本語研究の創始者……………	四
(4)	國際補助語としての基本英語……………	四
(5)	ソーンダイク博士の基本標準語……………	五
(6)	基本語の重要性……………	六
(7)	基本語と其語原……………	七
(8)	ホーン博士の作文本位の基本語……………	八
(9)	會話の基本語……………	八
(10)	單語の active と passive との區別……………	一〇
(11)	基本語の確立と教材の改善……………	一一
(12)	基本語と學力及び進度規準の確立……………	一三
(13)	基本語に基いた英語教育能率増進の實例……………	一三
(14)	客觀的學力考査法確立の要……………	一五
(15)	ソーンダイク式單語テスト……………	一七
(16)	テスト(ソーンダイク)構成法……………	一七
(17)	ホレー式 Sentence Vocabulary テスト……………	一九
(18)	イングリ式單語テスト……………	一九
(19)	オグスレー式テスト……………	二一
(20)	各種英語テストとスケール(考査規準)……………	二三
(21)	諸外國語教授に應用されたテスト……………	二三
(22)	標準語學テストの一般的効用……………	二四
(23)	我國中等英語教育の改善案(目標の確立と教材に就て)……………	二五
(24)	入學試驗英語單語の制限……………	二七
(25)	教授學習法の改善……………	二九



### (1) 語學教育合理化運動

教育の合理化も要するに産業の合理化と其目標を一にするものである。一切の無駄を省いて教育經營の科學化、智能活動の合理化を基調とし、學習の能率増進を圖り、以て教育本來の目的を達成せんとするにある。此教育合理化は十數年來教育心理學者によつて高調されて來た問題であつて、語學教授乃至學習法の合理化も、要するに一般教育心理學上の新しい研究所産であり、其根本原則が語學學習教授法に應用されたに過ぎないのである。之れ語學教授法を改善し、學習上の根本原則を樹立するに當り、教育心理學者の協力に俟つべきもの多き所以である。最近倫敦タイムズ紙は此點に就いて論じて曰く（千九百二十九年四月二十七日倫敦タイムズ教育附録）

過去二十年間語學教師は貴重なる教授上のテクニークを蓄積したが、此テクニークは主として常識に基いたものである。而も語學教師の有する實際的智識は、精査吟味を経て科學的基礎の上に置く事が肝要である。……これ「英國近世語學協會」と「大英心理學會」とが協同研究を遂げ好成績を挙げ得る一大研究題目である。

更にタイムズ紙は外國語教授法合理化の第一歩として、基本的標準語の確立に言及して曰く、  
今日特に考慮を要する緊急問題は、學修課程に準じて秩序的に單語を習得する方法である。既習の語彙を暗記する事は少しも害はない。暗記は語學學習の唯一の方法である。然しそれには條件が伴ふ、即ち語句は最も多く使用されるものから學ばなくてはならぬ。一般の初歩讀本の編纂は此原則に依つてゐる、又依る可きものである。然し外國語に於ける使用度数に基く語彙順位は、我英國では米國に於けるが如く完全に確立してゐないのである。……斯の如き基本語順位表の科學的編纂法は米國に學ばねばならぬ。

## (2) 米國教育審議會の合理化具體案 (三大原則)

11

而してタイムズ紙の提唱した語學問題に關する教育心理學者及び語學教師の協力による調査研究を具體化する爲に最も力を盡したのは、米國カーネギー財團である。同財團は米國及び加奈陀の中等學校並に大學に於ける外國語教育の不振に鑑みて、語學教育の根本方針樹立の必要を痛感し、米國教育審議會 (the American Council on Education) をして教育心理學者及び語學者二十餘名より成る一大委員會を組織せしめ、米加兩全土に亘つて一大調査を行ひ、今や其事業の大半を完成した。紐育ヘラルド・トリビューン (千九百二十七年一月二十三日) 紙は此記事を掲げ、調査委員會顧問ウイスコンシン大學教育學教授ヘンモン博士の談話として、調査會の根本精神を三欄に亘つて詳細に報じてゐる。其一節を抄譯すれば、

「此等諸外國語 (佛、獨、西) の基本語表は目下編纂中である。此基本語表完成の晩には學習者は此表により最も學習の必要ある語句から先に教へらるゝに至り、從つて學科課程も堅實なる基礎の上に置かるゝこととなるべし。……斯かる研究調査の肝要なる理由は自ら明白である。what to learn and how to learn 之が教育の根本問題であつて、教授法乃至學力考査の如きは重要な事ではあるが、第二次的問題に過ぎないのである。此等の問題を研究し改善を加へんとする所以は、現代の社會が教養ある人士として知る必要ありとする知識を、最も經濟的に又有効に學習するの途を開かうとするに外ならないのである。最近學習状態には多大の改善が加へられたにも拘らず、何を學び又如何にせば之を最も經濟的に且有効に學習し得るかといふ根本問題が今日迄等閑に附せられてゐたことは、教育研究家の均しく認むるところである。如何なる知識が最も肝要であるか、如何にして之を獲得すべきか、之は極めて古臭い問題であつて、十年又は三十年毎に擡頭して來るものであるけれども、殊に現代の教育に於ては更に新しい意義を有するに至つたのである。……現代の定量的教育法 (quantitative methods) は、あらゆる學修課目の内容、目的、教授法に甚大なる影響を及ぼしつ

ゝあるのである。外國語教育の調査研究が行はれるのもこの理由に外ならない。今回の調査研究は語學教育の全般に亘つて行はれるものである。……外國語問題の研究は、心理學者、語學教師、教育家の協力を要する一大事業である。學生の學力測定又は學習法は心理學者の研究題目である。學科課程の内容及び教授法は、當然語學教師の研究領域である。學力進度の測定は確立は教育心理學者の任務である。若し吾々委員にして其職責を全うし得んか、之れにより學科課程及び教授法は改善され、客觀的に語學進度を測定する基準の樹立を見るに至るべし。

之により吾人は該委員會の調査方針及び其目標を知り得るのであるが、更に其調査要項の梗概を掲ぐれば左の如し。

- (1) Who should and who should not study foreign languages の問題を決すべき語學性能の測定法
  - (2) 語學學習を開始するに適當なる年齢、並に中等學校と大學とに於ける進度の差及び兩者の學習効果の比較
  - (3) 語學學習を無効に終らしめぬ程度に於て最小限度の學修期間
  - (4) 中等學校に於て一年、二年、三年間、外國語を學習する者の各學習の目標及び標準
  - (5) 右三種の語學 (佛、獨、西) 學習者に對する各學科課程及び其教材 (單語、文法、文化的內容) の配按
  - (6) 語學學習上所定の目標に到達するに最も有効なる教授法
  - (7) 語學學習者の學力及び進度を測定すべき客觀的基準の樹立
- 而して各委員は此等の諸問題調査の報告を答申するに當り、私見を避け、所説は一々之を統計的數字又は實驗記録を以て立證すべしといふ原則の下に五ヶ年に亘り研究調査を行つた結果、語學教授及び學習法に關する圖書解題を始め、各部門を合して十八卷の報告書を公表し、語學教育史上に一新時代を劃したのである (The completion of these and other studies should mark a real epoch in the study of the content of the modern language course in the secondary stage.)
- 此等の調査研究問題に對して委員會が最も決定的解決 (final word) を下し得たのは、
- (1) 言語の使用度數の統計に基いて作つた諸外國語の基本的標準語の確立

11

(1) Algernon Coleman: *The Teaching of Modern Languages in the United States.*

- (2) 學習課程の目標及び進度の客觀的標準樹立  
 (3) 語學技能及び進度の客觀的測定法の建設

とである。(2)及び(3)は基本語の確立によつて始めて成立し得るものである事は勿論である。然し此等は皆既往十數年に亘り、斯界の先覺者によつて唱導されて來た語學教育上の根本原則であつたのを、今米國教育審議會が之を今後の語學教育の方針として採用したに過ぎないのである。以下は語學教授合理化の出發點ともいふべき、基本語の確立を見るに至つた沿革と、語學學習能率増進の一助として基本語應用の一斑を述べたものである。

### (3) 基本語研究法の創始者

言語の Frequency (使用度数) の調査により基本語確立の原則を示したのは獨逸の速記術研究家ケーディング氏である。氏は三十餘年前延べ語數一千一百万の資料を用ひて各語の使用度数を統計的に精査し、基本語一萬語表を公にし、之により獨逸式速記術を完成するに至つたのであるが、語學教育に於ける基本語の重要性に就ては餘り教育者の注意を惹かなかつたのである。氏の勞作の教育的價值が學界に認められたのは比較的最近の事で、今日まで行はれた基本語の調査は皆ケ氏の示した統計上の原則に則つたものである。

### (4) 國際補助語としての基本英語

基本的標準單語に對する要望に系統が二つある。一は教育的、他は實用的方面に其源を發してゐるのである。前者に就ては既に述べた通りである。後者は英語の國際化を促進せんとする企圖に出發したものである。米國の綴字改良論者エルドリッチ氏が千九百二十二年に日刊 *Buffalo Express* 紙の十萬語に就て各語の統計を取り、最も多く使用される六千語を選んで

發表した「基本單語六千語表」は此方面を代表したもので、其序文の冒頭に於て、*The ultimate aim of the work is the introduction of a limited vocabulary for universal use.* と述べてゐるのを見ても其目的は明かである。

最近英國の *Psyche* 誌及び紐育發行の *Saturday Review of Literature* (July 20, 1929) で發表された英國ケンブリッジ大學のオグデン氏の基本英語 (Basic English) も此系統に屬するものである。氏の説によれば、外人が英書を充分に理解するには、一萬五千の單語の知識と之を修得するに最低限度二ヶ年の勞力を要する、之れでは英語を國際語とする事は覺束ない。此二ヶ年の勞力を二ヶ月に短縮せんとするのが氏の趣旨であつて、語數を八百五十に限り之を補足するに氏の案出した簡單な文法を以てしたものである。オグデン氏は此基本語により國際補助語問題を解決せんとするのみならず、氏の基本語に基いた新語學學習法を樹立して、能率の擧らぬ從來の語學教育に根本的刷新を加へんとするものである。氏が今回發表した八百五十の基本語表を見ただけで其價值を判斷することは不可能である。氏の計畫の成否は此基本語彙を材料として目下編纂中の學修課程によつて決するものであると思ふ。(オグデン氏よりの最近の通信によれば、氏の調査は今尚ほ進行中であるが、完了の上は蓄音機で之が普及を圖ることである)。

### (5) ソー نداイク博士の基本標準語

外國語を學習する場合に、最も多く使用される語彙即ち使用價値の多い語から先に學習す可きものである事は何人も否定する事の出来ない事である。而もこの常識的に考へて明白な眞理が、最近まで教育的には實行されなかつたのである。其理由は基本語の重要性を認めながら、今日迄如何なる語彙が基本的標準語であるかを明かにする事が出来なかつた爲である。米國教育界の蓄音コロムビア大學心理學教授エドワード・ソー نداイク博士が、千九百二十二年に發表した基本單語一萬語表



Dr. Edward L. Thorndike

は教育上又言語學上眞に一新紀元を劃すべき勞作である。ケーディング氏によつて創始された言語統計と其應用は、此基

(1) R. C. Eldridge: *Six Thousand Common English Words.*  
 (2) *The Teacher's Word Book.*

本語表によつて始めて普及し、其研究が今日の旺盛を見るに至つたのは、教育心理學者としての氏の十數年に亘る不斷の研鑽に負ふ所が多いのであるが、他方、單語の知識が單に語學のみならず普通教育に於ても偉大なる意義を有するものであることが一般教育家に認められた結果に外ならないのである。

ソ博士は基本語確立に當り、教育家又は専門家の主觀的判斷によつて決定したものは無價値であつて、各語の使用價値は各種の文獻に現はれた其使用度數を統計的に精査し、其 Frequency によつて其重要順位を客觀的に確定すべきものであるといふ原則の下に、十餘年を費して reading を本位として各種の文獻(總語數約五百萬語を含む)に就いて各語の使用度數の統計を取り、最高點を得た語から左記の如くに順次之を配列し、基本一萬語表を編纂したのである。

- (1) in
- (2) and
- (3) the
- (4) a
- (5) to
- (6) with
- (7) be
- (8) of
- (9) as
- (10) at
- (11) not
- (12) for

(6) 基本語の重要性

アイオワ大學佛語教授ワード博士曰く「讀書、作文、會話に於て基本單語の知識は極めて肝要である。然し此基本單語を學ぶに三つの障壁がある。第一に學習者は如何なる語が基本語たるかを知らず、第二に常用基本語の重要性を知らず、第三に基本語學習の方法を知らざること、即ち是れである。然るに基本語及び其重要順位の確立により、英語學習者は基本語の重要性を的確に知ることが得るに至つたのである。ワード博士の調査に基いた上記の表は、常用基本語の重要性を最も如實に證明するものである。(説明、最も頻繁に使用される十語は現代普通英文の二十五パーセントを占む、以下略)。

基本語の重要性は他の諸外國語の例を見ても明かである。ボストン公立學校試験委員ツイグ氏は

(1) Harvard French Vocabulary Tests

Words	Occurrences	Per cent
29	47,421	47
99	61,502	62
202	68,348	68
465	76,653	77
950	83,685	84
1,725	89,536	90
7,211	100,000	100

十萬語を含む代表的佛蘭西文を材料として調査の結果を上如く報告してゐる。之を前項に掲げたワード教授の表と比較して、基本語と一國語全體とを對比した兩表の數字が極めて接近してゐる事は興味あることである。(説明、十萬語中に於て最も頻繁に用ひられる二十五語の使用された度數は四萬七千四百二十一であつて、全體の四十七パーセントに相當す、以下略)。

(7) 基本語と其語原

ソーンダイクの基本一萬語表は單に語學教師のみならず、一般教育者にとつて言語の使用價値を決する唯一の基準となり、此表に無い語は非日常語と見做されるに至つたのである (a word is called uncommon if it is not contained in the Teacher's Word Book).

加ふるにソーンダイク博士の基本語の發表は、言語の科學的研究に多大の刺戟を與へ、米國各大學は競うて此方面の研究を公にするに至つたのである。千九百二十五年にはハーヴァード大學から、デューイー氏の Relative Frequency of English Speech Sound. インディアナ大學からはソ博士の基本一萬語の語原研究が刊行された。殊に後者は言語學及び語學教育上極めて有意義な調査であつて、之により基本英語を構成する語系的要素が始めて明瞭になつたのである。今ソーンダイク基本一萬語表中(固有名詞を除いた)の英(土着語)、羅典、希臘系語の分布率及び各語系の使用度數(Frequency)率を擧ぐれば上の如し。

English	35.15 (50.52)
Latin	45.98 (36.11)
Greek	7.19 (4.76)

爰に英語教育者の注意すべきことは、日用語の大部を占むるアングロサクソン系語は全體(一萬語)の三割五分餘に過ぎざるも、其使用度數は常用英語の五割以上を占めてゐることである。

(1) R. S. Powers: A Vocabulary of Scientific Terms for High School Students (Teacher's College Record, Nov, 1926). (2) E. L. Lindsay: An Etymological Study of the 10,000 Words in Thorndike's Teacher's Word Book.

### (8) ホーン博士の作文本位基本語

ソーンダイク博士の基本語の調査は、其資料を主として reading の方面に求めたものであるが、更に之を writing の方面から研究したものがアイオワ大學教育學部長ホーン博士の *Basic Writing Vocabulary* である。

ホ氏は國家補助の下に公私の書簡文、諸會社の商業通信文、報告書等を調査資料（總語數五百萬）として各語の frequency に依つて其重要順位を定めた一萬語表を公にした。

ホーン博士は作文を本位とした自己の基本語表と、讀書を本位としたソーンダイク基本語表とを比較して基本英語研究者にとつて大いに興味ある新事實を提供してゐる。ソーンダイク表には suffix (-ly, -ness の如き) を加へて作り得る derived words (派生語) が統計上除外されてゐる場合が多いから、其 base form (基本語形) のみに就て兩表を比較すると上の如き事實を示す、即ち最も重要な基本五千語を對照して見ると、ソーンダイク 五、〇〇〇語表中の 四、八三〇語がホーン表にも載つてゐる。其差は全體の三分四厘に過ぎない。一萬語に就て見ても兩表の差は一割に達しない。斯くの如くにして reading から見ても亦 writing から見ても、基本的標準語は略ぼ同じであるといふ事が統計的に立證され、基本語の學習價值は愈々確認されるに至つたのである。

ソーンダイク表	ホーン表
1-5,000	4,830
1-10,000	9,014

### (9) 會話の基本單語

日常の會話に現はれる單語に就ても各種の調査が行はれてゐる。殊に兒童の日常用ひる單語の數及び其種類も語學教育者にとつて興味ある研究題目となつてゐる。此方面の調査は對話の速記録に依らざるを得ないので、従つて断片的ではあるが、

此等の調査に用ひられた言語材料の延べ語數は總計一千五百萬に達してゐる。また千九百二十五年の米國「教育研究國民協會」大會で兒童の對話用語に關する調査が發表された、此報告によると小學一年生の對話單語研究が三種發表されてゐる。此等の調査資料は學童（主として小學一年生）の對話であつて、其延べ語數三十餘萬であるが、その中に約五千の異つた單語が現はれてゐる、そして三調査に共通的に十五回以上使用された基本的單語は一千七十種である。

今此兒童會話基本語一千七十語を reading を基礎としたソーンダイク基本語表と對照すると前者の約八割はソーンダイク博士表の重要順位一、〇〇〇表に、約四分は二、〇〇一—二、五〇〇表に、約四分は二、五〇一—五、〇〇〇表に、約二分は五、〇〇一—一〇、〇〇〇表に收載されてゐることは注目し得るものである。前項に於て述べた通りホーン博士は writing を基礎とした氏の基本語と reading を主としたソーンダイク氏の基本語とを統計的に比較對照して兩者の極めて接近してゐる事を立證されたが、今此處に擧げた reading と speaking との基本單語の比較も亦大體に於て兩者の間に大差なきことを示したもので、基本語習得の緊要なることを更に裏書きしたものである。一方、日本で現今發行されてゐる英和大辭典にも載つてゐない單語が一千七十の會話基本語の中に見出されることは兒童用語集の特徴を示すものとして面白い現象である。一例を擧ぐれば *ouch* (ア痛ッ) *teacher* (= *seesaw*) の如きである、此等の語はスタンダード英和辭典及び三省堂英和大辭典にはあるが他の大辭典には載つてゐない。

名詞	1,029
形容詞及副詞	634
動詞	493
代名詞	45
前置詞	36

成人者の對話に現はれる單語の調査も少なくないが、其中少し變つた方面の研究は紐育タイムズ紙所載の米國ベル電話會社が調べた代表的長距離電話五百通話（對話者千人）に用ひられた單語の統計である、使用語數總計八萬語であるが、その中に使用されてゐる異つた單語數は僅に二千二百四十に過ぎないといふ事は特に注目すべきことである。尙此二千二百四十語を品詞別に分類すると上表の通りである。

尙タイムズ紙は此電話通話によつて示された最も多く使用される二十五語とデューイ氏の基本單語順位表（主として時文英語を調査資料とした）中の最も多く用ひられる二十五語とを上記の如く比較對照し

(1) *The 24th Yearbook of the National Society for the Study of Education, Part I* (a Report of the National Committee on Reading).

(2) *The New York Times* (July 7, 1929).

最も多く使用される二十五語表

電 話 (總語數 79,390)	時 文 (總語數 80,000)
I .....	The ..... 5,848
You .....	Of ..... 3,198
The .....	And ..... 2,624
A .....	To ..... 2,339
On .....	A ..... 1,696
To .....	In ..... 1,693
That .....	That ..... 1,076
It .....	It ..... 973
Is .....	Is ..... 970
And .....	I ..... 924
Get .....	For ..... 828
Will .....	Be ..... 677
Of .....	Was ..... 671
In .....	As ..... 626
He .....	You ..... 620
We .....	With ..... 582
They .....	He ..... 544
See .....	On ..... 514
Have .....	Have ..... 494
For .....	By ..... 480
Know .....	Not ..... 471
Don't .....	At ..... 468
Do .....	This ..... 458
Are .....	Are ..... 434
Want .....	We ..... 423

10  
てゐる。

(10) 單語の Active と Passive との區別

日常の對話に用ひられる單語の研究が盛になるにつれて語學者及び教育者は單語を active と passive との二種に區別するやうになつた、active vocabulary とは日常の會話、作文(特に會話)に於て自由に使用 (use) し得る語彙、passive vocabulary とは咄嗟の間に活用し得ざるも他の語句との關係から其意義を認識 (know) し得る語彙をいふのである、勿論兩者の區別は截然たるものではなく、また教養の程度によつて此兩種單語の知識にも差異が生ずるのであるが、普通人の日常用ひる active vocabulary の範圍は前項の實例(會話用基本單語)に照しても略ぼ見當がつくのである、博學と語彙の豊富を以て一世に其名を知られたる故米國大統領ウィルソン氏ですら歐洲大戰中になした七十五回の演説の中に六千二百二十一種の單語しか用ひてゐないのである(米國スタンダード辭典編纂主任グイゼリ博士、單語研究のオ...

(1) Godfrey Dewey: *Relative Frequency of English Speech Sound*.  
(2) *The Springfield Republican* (March 21, 1926).

無學者.....	400語
五歳の兒童.....	1,700 "
職人(教育ある).....	5,000 "
商人.....	3,000—10,000 "
牧師.....	14,000 "
辯護士.....	23,000 "
醫師.....	25,000 "

ソリテイとして知られたる同博士が多年調査の結果發表した上記の表に示されたる如く米國普通商人の英語の單語知識は三千乃至一萬である。又ドーラン氏の調査によれば紐育の普通商人の日常用ひる active vocabulary は約三千五百語である。サンデイフォード氏の説によれば兒童の active vocabulary と passive vocabulary との比率は1對4乃至1對3位であると算定してゐる。然らば如何にせば日常生活に缺くべからざる此 active vocabulary を學び得るか、此は基本語彙に依るより外に途がないのである。active vocabulary の重要性は初年級又は會話、作文を擔任する教師にとつて頗る重大な意義を持つてゐる。リーダーの初巻には最も使用價值の多い單語を入れるのが編纂上の原則になつてゐるからと言つて、第一巻(殊に英米の教科書から編纂した)に現はれてゐる語彙全部が最も使用價值の多い實用的 (active) 語とは言ひ難いのである。

例へば第一巻によく見出される鳥獸の擬聲語 mew 又は cluck などホーン一萬語表には載つてゐない、ソーングイク表では四、〇〇一五、〇〇〇になつて初めて現はれてゐる、英語讀本の第一巻などによく散見する Tommy spins a top などの如き文中の單語が果して如何程の實用的價值があるか、成程ソーングイク表を調べると、spin は三千代、top は一千代であつて比較的重要な語であるが然しこれは此文に用ひられたのとは異つた意義に使用する事が多いので重要であるに過ぎないのである。従つて初學者に讀本を教へる場合には言語の實用的價值に重きを置き其使用價值に準じて輕重の度を異にすべきものである、而して各語の使用價值を決する唯一の規準は基本單語表に示された其順位である。

(11) 基本語の確立と教材の改善

英語讀本(特に初年級用)の編纂上の優劣は主として各巻に於ける基本單語の配置選擇の巧拙によつて決するものであ

(1) *A Study of Vocabularies* (Pedagogical Seminary, 14).  
(2) Peter Sandiford: *Mental and Physical Life of School Children*.  
(3) E. L. Thorndike: *Word Knowledge in the Elementary School*.



る。教科書に此根本原則が遵守されてゐるか否かを決すべき唯一の規準は基本語表である。ソーンダイク博士は教師の教科書選擇上、基本語順位表が如何に有効であるかを示すため、其基本語表に照して教科書編纂上の杜撰を一々實例を擧げて指摘してゐる。従来の教科書編纂法の下に如何に教科書中の單語が無限に増加しつゝあるかを示すためウエードブル氏は現行書の代表的獨逸語入門書二十三種の單語を調べた結果、此等二十三卷の教科書に現はれてゐる三千五百の異つた單語の中で各書に共同的に用ひられてゐる單語は二百二十七に過ぎないことを指摘し單語統一の要を説いてゐる。更にコロンビヤ大學教授ウツド氏は十六卷の佛蘭西語(入門)教科書を精査し約四千の異つた單語を得たが、此十六卷に共同的に現はれてゐる語は僅に百三十四に過ぎない事を示し、學習能率増進の一方法として教科書の單語整理の急務を論じてゐる。

英、獨、佛、西等諸外國の基本語彙順位表の完成は今や教科書編輯法に一大革新を齎してゐることは米國教育審議會語學教育調査委員長フアイフ教授の報告によつても明白である。(But textbooks are already appearing which have adopted this principle, and it is a safe prediction that in the course of a few years no textbook will appear for the earlier levels of foreign language study which does not recognize it.)

我國に於ても單語の整理統一の第一歩として現行英語教科書に就て類似の調査を行ふ必要がある。又單に誤植の指摘にとどまる様な教科書檢定法を改善して、少なくとも單語だけでも基本的審査原則を設けることが急務ではあるまいか。

## (12) 基本語と學力及び進度規準の確立

基本語の確立は外國語教育に一定の具體的目標(此點に就ては後段に於て詳説すべし)を與ふるのみならず、尙其目標の標準を學年別に決定することを可能ならしめるのである。

(1) *Word Knowledge in the Elementary School*. (2) *The Modern Language Journal* (Oct., 1923). (3) *A Comparative Study of the Vocabularies of Sixteen French Textbooks* (1927). (4) *The Improvement of Modern Language Teaching*. (5) *Word Knowledge in the Elementary School*.

千語中の八割、更に其次の千五百語中の六割を合せたものといふ風に一定の標準を設けることが出来るのである。要するに基本語の確立により、學級、年齢、心理年齢別による生徒の單語知識の規準は從來よりも一層明確に且具體的になつて來たのである(一九頁「ソーンダイク單語テスト」参照)、又外國人が英語を速成的に學習する場合には、ソーンダイク博士の言の如く氏の基本語中で最も基本的である最初の五百語から少數の小兒用語を除いて之に加ふるに他の重要な語を以てし、之さへ徹底的に習得すれば日常の簡單な用は辨ぜられるのである。

## (13) 基本語に基いた英語教育能率増進の實例

自然は大浪費者である、小兒は精力の經濟化を知らぬ、而もそれが兒童の發達して行く唯一の自然的道程である、之に反し成人は常に最小限度の努力で最大限度の所産を得んとしてゐる。外國語學習法が土着の兒童の自然的母語學習法と其趣を異にせねばならぬ理由が此處に存するのである。外國語學習法には米加聯合語學教育調査委員長フアイフ氏の言を借りて言へば、最短期間に最大の効果を收むべき一種の高速度式學習法(rapid-fire methods)を應用する必要が自然生じて來るのである。然るに、米加聯合語學調査委員會の報告書中に最も能率の擧る新語學教授法として特筆されてゐる一實驗が載つてゐる。(This remarkable experiment demands the attention of all who are interested in rapid-fire methods of teaching students to read foreign languages. This is the most comprehensive and the most significant contribution that has so far been made available on the problem of teaching young persons to read a foreign language). それは印度の高等師範學校長英人ウエスト博士の創案であつて、基本語を中心とした所謂 rapid-fire 式新教授法である。

ウエスト氏が其著書 *Bilingualism* に於て主張する所に依れば語學教育には常に surrender value が伴はなくてはならぬ。

(1), (2) R. H. Fife: *The Reading Objective*. (3) Algernon Coleman: *The Teaching of Foreign Languages in the United States*. (4) *An Annotated Bibliography of Modern Language Methodology*.

勿論課程を修了して始めて價値の生ずるが如き性質のものを學修する場合に於ては之を途中で廢すると其 surrender value は零であるが語學教育に於ては然らず、中途で其學習を廢しても其學修期間に準じたる surrender value を有すべきものである。此 surrender value は一ヶ年の學習により四割、二ヶ年の學習により八割に達すべきものであるといふのである。ウエスト氏は此根本方針を貫徹する爲、教材の改善を以て其第一歩なりとし、先づ普通の英語讀本よりソーンゲイク基本語表に依り最も使用價値の少い語を除き之に代ふるに最も頻繁に用ひられる語を以てし、最も active な語句を反覆すると同時に生徒の學習心を沮喪せしめざる程度に新語句を加へ、三千五百語の學習を以て其目標として其課程を了るのである。又生徒の學力及び進度を測定するに當り既習課程に基いた舊式試験では足りない、學習者の眞の語學技能を測定するには客観的テストが必要であるといふ趣旨で、學習中絶えず Kansas silent reading tests を用ひて客観的に生徒の學力進度を考查する制度である。(silent reading test は教課の内容に就て質問をなし又は原文を他の分り易い言葉で説明させる方法等により、逐字的翻譯によらずして生徒の文理解力を考查するのである)。

ウエスト氏は此制度を採用した結果學習能率は著しく増進し、十七週間の學習によつて二ヶ年半(英國兒童の進度を標準として)の効果を收め得るに至つたのである。ウエスト氏の語學教育の基調は讀書力養成主義であつて讀書、作文、會話の發達は學習心理上相關のものから並進すべきものであるといふ説を排して讀書集中主義を強調するのである。殊に初年級に於ては外國語の文理解力を養ふことが結局作文、會話力を得る捷徑であるとするのであり、また効果の擧るものとするのである。(The easiest ability to acquire in a language is Reading; the ability which can most easily be enjoyed in a foreign language is Reading; the ability which can be most easily improved in solitude without the help of a teacher is Reading.)

また己の意を他に通するに當り語音の正確といふ事は rhythm の正確ほど大切なものではない、故にリズムの練習に

力を入れた方がより大なる効果が得られるといふのである。従つて語學そのもの、學修に入るに先だつて入念な發音の練習(phonetic drill)を課するの要なしとするのである。

ウエスト博士の surrender value 説には傾聴に値するものがあると思ふのである、語學教育には、よし一年學修しても二年學修しても(修業期間が長ければ長いほど其効果は増大するものではあるが)その學修期間に準じた surrender value が伴ふべきものである。中等學校に於ける英語教授を以て高級學校に入る準備に終らしむるが如き教授法乃至學習法は上級學校に入學しないものには誠に價値の少ないものである。要するにウエスト博士の語學教授法は今回の米加聯合語學教育調査委員會の改善案と全然一致するものである、即ち

- (1) 讀書集中主義 (The first step in the improvement of modern language teaching, then, is a concentration on the reading objective).
- (2) 基本語順位に據る言語材料の配按 (the careful gradation of vocabulary material which is arranged on a basis of the commonest words, not selected by subjective judgment but based on frequency counts like Thorndike's English Word List, or those published for Spanish, German, and French by the Modern Language Study).
- (3) 逐字的翻譯に依らずして外國語の理解力を試験する客観的テストの使用 (the effort to test pupils for understanding what they have read without translating it into the mother tongue).

#### (14) 客観的學力考查法確立の要

學習者の學力技能の精度を考查する爲め學理應用の客観的測定法の建設は單に語學界のみならず一般教育界の要望である

(1), (2), (3) R. H. Fife: *The Improvement of Foreign Language Teaching*.

(1) Michael West: *Learning to Read a Foreign Language* (Psyche, Oct, 1929, London).

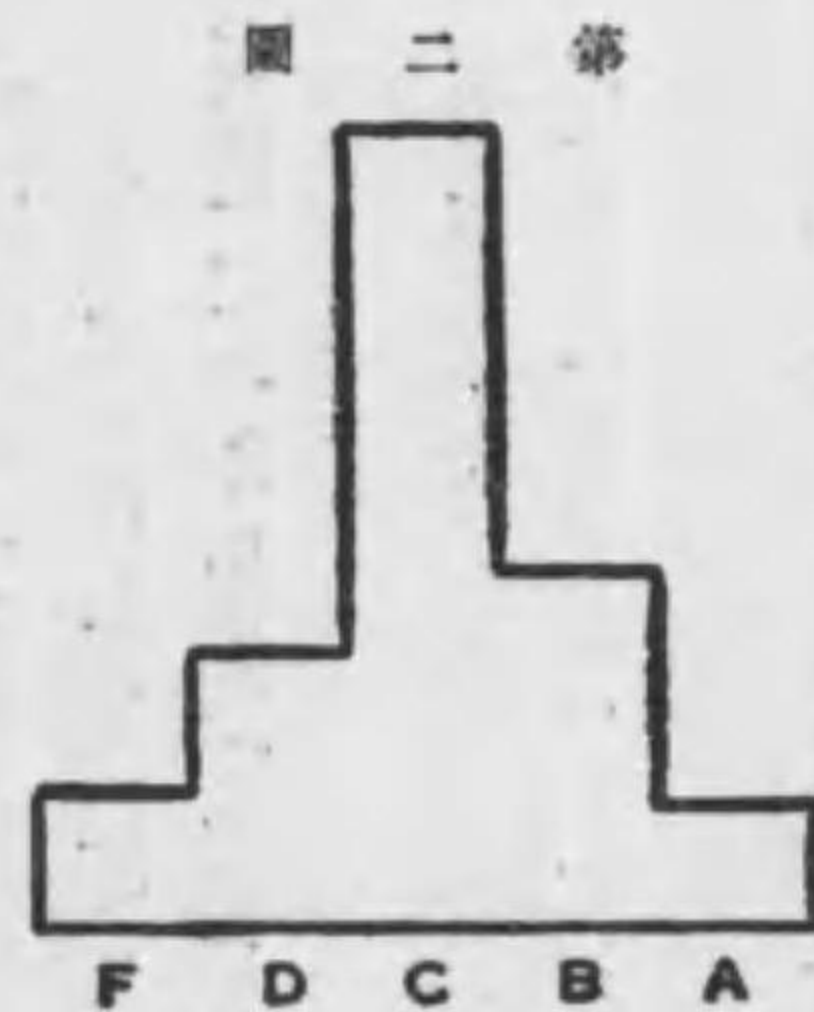
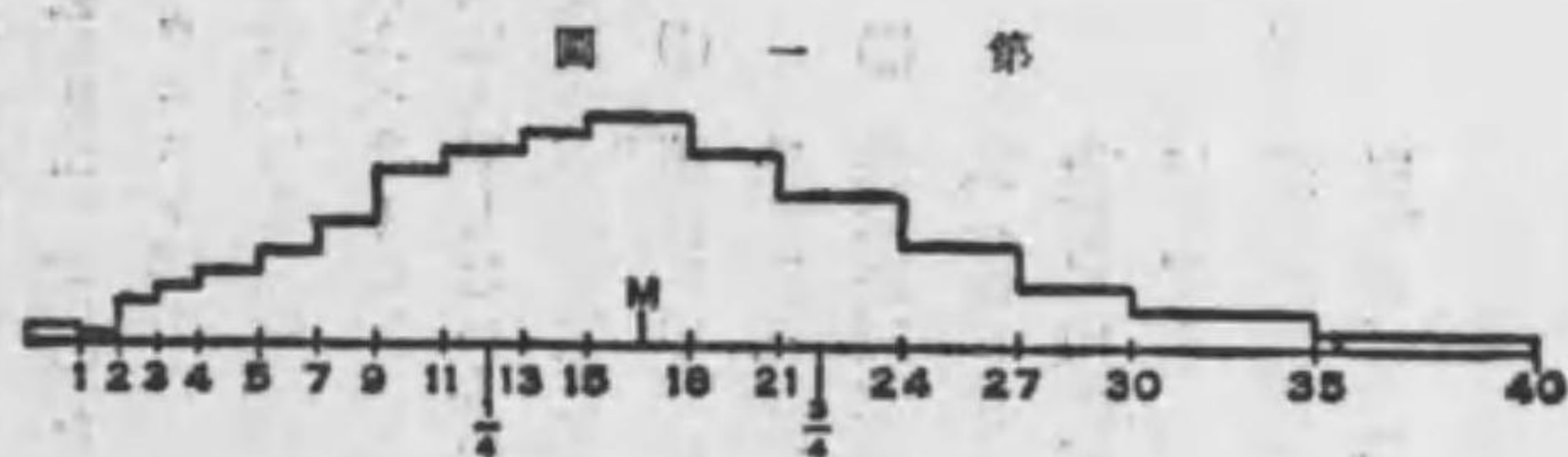
(兵庫縣中學校教育研究會でも議題となつてゐる)。而して現今此テストが最も有効に應用されてゐるのは語學教育である、今語學テストに就て詳述するに先だち、客觀的學力考査法としてのテストの特徴に就て一言して置く必要があると思ふので

ある、從來用ひられて來た學力技能の考査法は主として教師が主觀的に選んだ問題の答案に對し主觀的に附した評點に基くものである。斯かる考査法が如何に正確を缺いてゐるかといふことは標準テストの完成によつて始めて暴露したのである。

市俄古大學附屬中學校長ジョンソン氏が標準テストを用ひて小學校七年生五千人の英語讀書力を考査した結果によれば、標準テストに據る學力考査評點の分布は常に第一圖に示されたやうな結果を齎らすのが本格的であるとしてゐる(即ち全級生徒の平均點(M)に相當する評點を得た者が最も多數を占め、其れ以上又は以下の得點者が漸次減少するものである)。

第二圖及び第三圖は同中學校英語科で同一課目擔任の二教師が行つた在來の主觀的試験の成績の結果を示したものである(A B C Dは甲、乙、丙、丁、Fは不合格を表示するものである)。

今此兩者を第一圖の標準に照して見ると、第二圖は稍々此標準に近いものであるが、第三圖に於てはA(甲)の評點を得たものが最大多數を占め、第一圖即ち客觀的 standardized test によつて示された標準を大いに遠ざかつてゐるのである、是れ此教師の採



點法には主觀性が多分に含まれて居り且其採點法は寬に失し、従つて不正確であるといふ事に歸着するのである。

最も確實な客觀的學力測定法としての標準テストの効用は教育界の等しく認むる所であつて多言を要しないのであるが、殊に其効果の最も顯著なものは語學教育の方面であることは大いに注目し値する事である。

コロンビア大學教授クロス博士の言を借りて言へば「中學校にせよ大學にせよ語學教師が科學的學力測定法の助け無しに學生の英語學力を判定し得ると考へる時代は去つたのである」(The day has passed when high school teachers or college instructors will regard themselves capable of judging the ability of students in the use of English without the aid of scientific measurement). 標準テストは單に最も正確な科學的學力測定法を提供するのみではない、其眞の使命は語學學習の目標の具體的標準化である。

標準テストの樹立により語學教育者は學級又は個人の一一定の期間に於ける語學力の進度を最も確に且客觀的に測定することが出来るやうになつたのである、殊に米加聯合語學教育調査會によつて完成された外國語(獨、佛、西)標準テストによつて全國諸學校の學修規準は確立し、此規準に照して學習者の單語、文法、讀書、作文の進度、學力を正確に比較測定し得るに至つたのである。

今日英語教授に使用されてゐる標準テストは單語、讀書、文法、作文、構文、綴字、習字、發音等の識力技能を個々に試験するものと、此等の二三課目に就て綜合的テストを行ふものとあつて、其種類數十種に及んでゐる。是等のテストは皆日本人の英語學習者に對しても使用し得るものであるがその内容を一々此處で紹介するの餘白がない爲、單に單語に關する二三の代表的な所謂標準テスト (standardized tests) に就て記することにしよう。

### (15) ソーランドイク式單語テスト

英語基本單語の開拓者ソーランドイク博士は標準テストに於ても第一人者である、氏が基本單語表完成後間もなく發表した

(1) E. A. Cross: Cross English Test.

「単語知識テスト」(Thorndike Test of Word Knowledge) は此方面の代表的テストとして最も古くから行はれてゐるものである。其解説に曰く「英語の重要順位を確立した「基本単語一萬語表」は一層優秀な単語テスト作製上の材料を提供するものである。此表を利用すれば百語づゝ五十回のテストを行ふことが出来るのである。現在のものはA B C Dの四種より成るのであるが其の難易の程度は皆均一である」。今、テスト(A)の一部を引用すれば左記の如し。

受験者は各行の左端の語(例へば afraid)の意義に符合する語を(1)(2)(3)(4)(5)中より選り其番號(例へば afraid の場合には(1))を右端に記し、教師はテストの answer key と對照して正解数を計算す(百を以て満點とす)。

1	afraid	(1) full of fear...	(2) possible	(3) necessary	(4) raid	(5) ill	—1
2	baby	(1) manner	(2) trembling	(3) young child	(4) nice	(5) soft	—3
3	divide	(1) mount	(2) pound	(3) hold	(4) cut in parts	(5) add together	—4
4	require	(1) revenge	(2) report	(3) need	(4) reward	(5) return	—3
5	action	(1) play	(2) deed	(3) mention	(4) opinion	(5) crime	—2
89	nauseous	(1) boorish	(2) loathsome	(3) synchronous	(4) scaring	(5) inopportune	—2
99	pact	(1) pittance	(2) remonstrate	(3) agreement	(4) skillet	(5) pressure	—3
100	distend	(1) swell	(2) prevent	(3) hoodwink	(4) put an end to	(5) inaugurate	—1

(16) テスト(ソーンダイク)構成法

前記テストに用ひられたる百語(左端1より100まで)は其番號順に左の法式でソーンダイク基本一萬語表から擇んだものである。此テストは英語を母語として學習する者を本位として作製したものであるから、之を日本の學校の生徒に課する場合には説明語(1)(2)(3)(4)(5)を日本語にするも可なり、例へば afraid (1)恐れて、(2)可能な、(3)必要な、(4)襲撃、(5)病氣、の如

最初の4語は…(重要順位)	1—1,000語より
次の 8 "	1,001—2,000 "
" 8 "	2,001—3,000 "
" 8 "	3,001—4,000 "
" 8 "	4,001—5,000 "
" 8 "	5,001—6,000 "
" 8 "	6,001—7,000 "
" 8 "	7,001—8,000 "
" 8 "	8,001—9,000 "
" 8 "	9,001—10,000 "
" 10 "	10,001—15,000 "
" 14 "	15,001—20,000 "

小學校第四學年(前半期)	19	per cent
" " (後半期)	24	"
" 第五學年(前半期)	29	"
" " (後半期)	33	"
" 第六學年(前半期)	38	"
" " (後半期)	43	"
" 第七學年(前半期)	48	"
" " (後半期)	52	"
" 第八學年(前半期)	55	"
" " (後半期)	58	"
大學卒業生	83	"

し、米國教育審議會及びコロンビヤ大學發行の佛、獨、西語の標準テストには受験者をして選擇せしめる説明語には一般に母語を使用す。また此テストに所要の時間は英米人の場合には二十分である、問題紙は次回に行ふテストの効果の減削を防ぐため施行後直に回収すべし、但し同一問題紙を用ひて同一生徒に對しテストを繰返すも其効果に及ぼす影響は微々たるものであることである。

ソーンダイク博士は此テストを數萬の小學生及び大學生に應用して単語知識を測定し得たる結果に基き各學年の標準 score を右記の如く發表してゐる。

(説明、小學四學年生にして百語のテストに對し正解十九語を得たる者は小學第四學年生(前半期)としての単語知識の標準に達したものである、以下略)。

(17) ホレー式 Sentence Vocabulary テスト

チャールズ・ホレー氏の単語テストもソーンダイク基本語に準據したものであるが、左記の如く context を與へ、之を補足するに必要な単語を與へられたる數語中から選んで其の下に線を引くのである。テストはA Bの二種あり、上記はAより引用したもので、小學校三學年より八學年用、Bは中學校用である。

1	A gown is a.....	string.....	animal.....	dress.....	plant
2	An orange is a .....	dress .....	animal.....	fruit .....	hornet
3	Envelopes are made for...	letters .....	snakes.....	water .....	apples
4	Haste is .....	hurry.....	red .....	little .....	sweet
5	Scorch means to .....	cut.....	burn.....	bruise .....	turn
6	Straw grows from .....	trees .....	oats .....	fish .....	potatoes
63	To tolerate is to .....	tax.....	multiply .....	record .....	permit
69	Exaltation is .....	intoxication .....	exhalation .....	elation .....	admiration
70	Avarice is shown by .....	egotism.....	altruism .....	covetousness ..	melancholy

(18) イングリス式単語テスト

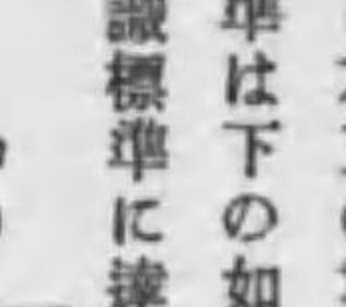
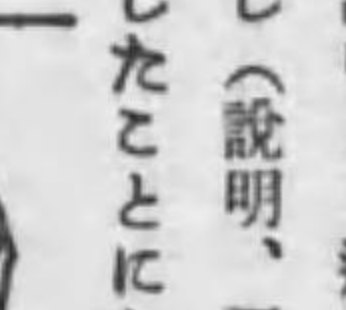
ハーヴァード大学教授イングリシ氏の *Ingls Tests of English Vocabulary* (Form A, B, C) は主として中學生及び大

1	Don't abandon me .....	persecute.....	desert.....	mock.....	irritate.....	restrain
2	He was granted <u>absolution</u> .....	permission .....	forgiveness ..	power .....	recognition...	authority
3	He was <u>accorded</u> privileges .....	rendered .....	refused .....	assured.....	promised.....	deprived of
4	An <u>acrimonious</u> answer.....	discouraging ..	friendly .....	bitter.....	slangy .....	haughty
5	An <u>admirable</u> person .....	excellent .....	tragic .....	vain .....	naval .....	shrewd
149	A position of <u>vanage</u> .....	danger .....	responsibility..	honor .....	advantage ..	disgrace
150	He <u>vented</u> his wrath .....	restrained.....	provoked .....	poured forth ...	regretted .....	excused

學生の讀書単語 (passive vocabulary) 知識の範圍測定を目的としたものである、従つてテストに用ひられた總語數百五十の中にはソーンダイク基本一萬語表中に無いものを多く含んでゐる。今 Form A の一部を抜載すれば右の如し。テストの方法は右端の語句中イタリックの単語の意義に相當する語を右方の數語中より選擇して underline するのである。  
 正解語數の標準は下の如し (説明、百五十語に對し正解語數四十五を得たる者は中學一學年生としての単語知識標準に達したことになるのである、以下略)。

45	語 (30 p.c.)	中學一年
63	" (42 " )	" 二年
78	" (52 " )	" 三年
87	" (58 " )	" 四年
105	" (70 " )	大學一年
129	" (86 " )	" 卒業

(19) オグスレー式テスト

	tree	1
	boy	2
	girl	3
	apple	4
	a boy walking up a hill	5
	a boy walking down a hill	6
	a mother singing to her little girl	7
	a mother giving her little girl some water	8

単語知識のテストは多種多様であつて、其程度も最も初歩のものの上に掲ぐるオグスレー女史の *Detroit Word Recognition Tests* の如く繪によつて小學校一學年生の単語 (ソーンダイク基本語表中で最も頻繁に用ひられる最初の五百語より選んだ) の知識を考査するものから、最も高級なテストに至つては Kennon 女史の *Tests of Literary Vocabulary for Teachers of English* (ロンビヤ大學出版) の如き英文學教師用のテストにまで及んでゐる。

## (20) 各種英語テストとスケール(考查基準)

## 文法・作文

- Wilson Language Test*. By G. M. Wilson.  
*Gross English Test* (Forms A, B, C). By E. A. Cross.  
*Tressler English Minimum Essentials Test* (Forms A, B, C). By J. C. Tressler.  
*Briggs English Form Tests* (Grades VII to XII). By T. H. Briggs.  
*Kirby Language and Grammar Test* (Forms 1, 2).  
*Presscy Diagnostic Tests in English Composition* (Vocabulary, Grammar and Punctuation). By S. L. Presscy.

## 読書

- Thorndike-McCall Reading Scales for the Understanding of Sentences* (Forms 1—10).  
 By E. L. Thorndike and W. A. McCall.  
*Stanford Achievement Tests* (Forms A, B). By T. L. Kelly, G. M. Ruch and L. M. Terman.  
*Monroe Standardized Silent Reading Test* (Forms 1, 2). By W. S. Monroe.  
*Gray Standardized Oral Reading Paragraphs*. By W. S. Gray.  
*Thorndike Visual Vocabulary Scales* (Grades III to VIII). By L. A. Thorndike.  
*Gates Silent Reading Tests* (Types A, B, C). By Arthur Gates.  
 習字・綴字・發音  
*Sixteen Spelling Scales Standardized in Sentences for Secondary Schools*. By T. H. Briggs and T. L. Kelly.  
*Ayres Spelling Scales* (Grades III to VIII). Russell Sage Foundation.  
*Thorndike Scales for Handwriting of Children*. By E. L. Thorndike.  
*Gates Graded Word Pronunciation Test*. By Arthur L. Gates (*Teacher's College Record*, Nov., 1924).

## 文學鑑賞

- Scales for Appreciation of Poetry*. By A. Abbott and M. R. Traube.  
*Seven Tests for Appreciation of Literature*. By Hannah Logasa and Martha McCoy.

## テスト参考書

- An Introduction to Educational Measurements*. By Norman Fenton, Ph. D. and D. A. Worcester, Ph. D. 1928.  
*The Use and Interpretation of Educational Tests*. By H. A. Greens, Ph. D. and A. N. Jorgensen, Ph. D. 1929.  
*Tests and Measurements in High School Instruction*. By G. M. Ruch and G. D. Stoddard. 1927.  
*A Manual of Individual Tests and Testing*. By A. F. Bronner and William Healy. 1927.

## (21) 諸外國語教授に應用されたテスト

英語教授に於て基本語の確立と其學力測定とが相並行して今日の發達と普及とを見るに至つた如く、諸外國語(佛蘭西語、獨逸語、西班牙語、羅典語)教授に於ても此兩者は學習能率増進の根本原則として認められてゐるのである、従つてテストの様式も英語テストに應用された方式を踏襲したものに過ぎないのである、以下掲ぐるものは最近米國教育審議會 (the American Council on Education) によつて完成されたもの及び其他の代表的テストである。

- American Council Alpha German Test* (Part I: Vocabulary and Grammar; Part II: Silent Reading and Composition).  
 By Profs. Henmon, Morgan, Hinz, Purin, and Rossberg.  
*Columbia Research Bureau German Test* (Forms A, B). By Profs. Purin and Wood.  
*Henmon French Test* (Vocabulary and Sentences). By Prof. V. A. C. Henmon.  
*American Council Beta French Test* (Part I: Vocabulary and Grammar; Part II: Silent Reading and Composition). By Profs. Henmon, Coleman, and Traube.

- Columbia Research Bureau French Test* (Part I: Vocabulary; Part II Reading). By Profs. Meras, Roth, and Wood.
- American Council French Grammar Test*. By Prof. Cheydeaur.
- French Vocabulary Test* (Forms A, B). By Alice M. Twigg.
- American Council Beta Spanish Test* (Part I: Vocabulary and Grammar; Part II: Silent Reading and Composition). By P. ols. Calcott, Williams and Wood.

## (22) 標準語學テストの一般的效用

- (1) 學習進度の客觀的測定
- (2) 同一のテストを用ひて各學年生徒の學力を考查し得ること
- (3) 各學年級の學習規準 (class norm) の決定
- (4) 同一學年級に屬する各組間の學力及び進度の差異の測定
- (5) 他校同學年級との學力の客觀的比較
- (6) 個々の生徒の學力及び進度と class norm との比較
- (7) 教授能率の客觀的測定と教授法の缺陷の表示
- (8) 試験 (特に入學試験の) 標準化と採點の公正
- (9) 短時間に既習學科の全般に亘り考查を行ひ得ること
- (10) 進度の客觀的表示による生徒の攻學心の獎勵

如何なるテストの讚美者と雖も在來の主觀的試験法の特徴を認めないものはないであらう、従つて之が全廢を云々するのは早計の至りである。舊式の試験による學力考査法は qualitative である、即ち二三の限られたる問題に生徒の注意を集中せしめ之により學力を考査せんとするものである。之に反してテストは (現代の教育が定量的 (quantitative) である如く) quantitative であつて、短時間に而も速射砲式に幾十の試問を連發して既修科目に對する生徒の識力を全般に亘つて客觀的規準に據つて測定せんとするものであるが故に斷片的たるを免れない、これがテストの缺陷である。またテストの組立に一定のテクニークがあつて専門的知識と技巧が必要である。

## (23) 我國中等英語教育の改善

(目標の確立と教材に就て)

以上は過去二十餘年間に亘つて進行して來た語學教授の合理化運動殊に最近に至り語學學習上の原則として教育心理學者並に語學者に認めらるゝに至つた(1)語學教育目標の樹立、(2)基本語の確立、(3)語學知識の進度の客觀的測定法等を沿革的に叙述せんとしたものである。而して此三大原則こそ米國教育審議會が採擇した語學教授上の三大方針であつて、之が遂行こそ加奈陀及び米國の中等教育に於ける外國語教授をして希臘語、羅典語が追つた運命——上級學校に進まざる者には之を必修科目より除くといふ——を免れしむる唯一の途であると認めらるゝに至つたのである。米加聯合語學教育調査委員會が發表した十八卷の研究報告書も此三大方針を採擇するに至つた各種の調査報告であつて、委員會が完成した最も具體的な功績も佛、獨、西の基本語の確立と其テストの建設であつたのである。

我中等學校に於ける英語教育は徒らに勞のみ多くして効少なしとなし學界の有力の士にして或は教授時間の減少或は其全廢を唱ふるものが頻出するも、語學學習法乃至教授法に就て未だ一箇の有力なる具體的改善案だに提出されたことを耳にし

(1) R. H. Fife: *The Improvement of Foreign Language Teaching*.

ないのである。英語教授時間の減少問題の如きも其對應策さへ宜しきを得れば敢て排すべきものにあらず、今日の急務は教授法、學習法殊に教材の内容に相當の改善を施すことである。昨年の文政審議會では中學校に於て教授すべき英語單語の整理が議せられ、又中學校長會議でも單語數の制限が建議されてゐる。東京高等師範學校英語部から發表された「我國中等教育に於ける外國語」と題する小冊子にも「言語材料の分量に制限を加へ最も平易で且頻繁に使用せらるゝものに止める。これはねばならぬ。然らば斯かる單語の整理は何を基礎として行ふべきか、「最も平易で且頻繁に使用せられる」單語とは何を指すのであるか、又それを選択する方法如何、結局問題は Frequency の研究によりソーンダイク、ホーン、ゲイツ、デューイ等の諸家によつて確立された基本的標準語表に其解決を俟たねばならぬのである。「最も平易且頻繁に使用せられる」單語とは此等基本語表にある語學者の所謂 active vocabulary である、而して普通の英米國人が日常の談話、通俗文等に用ひる此 active vocabulary の數は二千乃至四千を出でないことは各種の統計的調査の明かに示す所である、故に中等學校一、二、三、四學年（前半期）の言語教材としてはソーンダイクの四千語表（reading）より小兒用語を除き之にホーン五千語表中前表に漏れたる語を加へて出來た四千語位を基本的言語資料とした文章を容易に理解し得る力を養ふを以て主眼とし、尙此等 active 語句の活用を一層學習者に徹底させるには oral work も composition も自然必要であつて、之によつて多少の意志發表力も養はるゝことになるのである。更に上級に進むに従つて一層讀書集主義の方針を採り前記の active vocabulary に加ふるに二千五百語程度の單語を以てすれば、普通の英文を容易に且速に（餘り辭書の助けに依らずして）理解するに必要な語彙の範圍として充分とは行かなくとも、少くとも基礎的語學教育として此が中等英語教育の目標とでも云ふべきものである、斯かる合理的、科學的基礎の上に立つてこそ始めて中等語學教育の目標は實現性を持つた具體的のものとなるのである、從來中等學校の英語教授乃至學習が單に上級學校の入學試験問題に支配され中等學校語學教育本來の機能を果し得なかつた

のも畢竟明確なる目標（言語材料に基いた）を缺いてゐた爲ではあるまいか、この目標さへ明確にせば上級學校は必ずや之に追隨するに至るだらう。

### (24) 入學試験問題英語單語の制限

今日まで高等學校専門學校入學試験問題の單語の範圍に何等の標準もなかつたことは受験者に非合理的な語學學習法を強ひることゝなつた。受験者中にはポケット型辭典の單語を全部暗記しようと努めた形跡（辭書の見出語を underline しつ）は吾々の屢々目撃するところである。しかも他方、入學試験問題中にはソーンダイク表にもホーン表にも見出されない單語を散見することがある。受験者の其のやうな企は寧ろ無謀と言ふべく、また斯の如き問題の提出法は當を得たものとは言ひ得ないのである。基本標準語の確立は斯の如き有害無益なる學習法より受験者を救ふと同時に、又一面問題提出者にも多大の參考資料を供するものである。筆者が過去十餘年間に亘る諸高等學校及び専門學校入學英語試験問題に使用された單語の延べ語數十餘萬に就て調査した結果によれば、此等の問題に現はれた單語は約五千七百種である、其中約五百語はソーンダイク・ホーンの兩基本一萬語表のみならずデューイー・エルドリッヂ語表にも見出す能はざるものである（cognate（同系語）の何れかゞ基本語表に載つてゐる語は計算より除くと共に、moment の形容詞 momentous の如きものは中等學校卒業生には難解な單語として之を計算に加へて）。左記の單語はその一部であるが之によつて見るも客觀的に選擇された基本單語表確立の要は窺知し得られるのである。

abhorrent · aboriginal acceleration acquiesce actuate affability affluence aglow apprentice aptitude  
arduous arduous armament armistice aridity artery assimilate august autocrat avow baneful  
benumb berri-berri bestial bestir bestrew bleak buoyant capitulation capsize celebrity



chronic	civilian	complexity	conclave	concentric	conciliate	conduce	conduction	Confusianism
consign	curricula	curry	decimals	deduct	deference	deferral	deprava	despot
detriment	deviate	devise	dexterous	dialect	disapprobation	dishearten	dislocation	deterioration
dissolute	distillation	diverge	diversion	dynasty	economize	elocution	elude	disparity
enhance	enumerate	epithet	equatorial	erase	esuary	exhilarate	feudal	feudalism
forbear	fracture	frenzy	frigate	frutiger	giraffe	glossary	gravitate	gunnery
homespun	icicle	identity	ignite	impede	imperceptibly	impertinent	impraise	inborn
indignation	indigestion	indiscretion	induction	infectual	ineffectual	inflexible	injunctious	inherent
insular	intemperance	intersperse	intrinsic	invaluable	invoke	invulnerable	irony	irrevocable
jangle	jostle	jugger	languor	larch	latent	lax	legume	librarian
lottery	lounger	lucrative	ludicrous	lunatic	luscious	ma'am	matze	malignity
manipulation	manufactory	mechanics	mediocrity	mummy	munificent	microscopic	miscalculation	mitigation
momentous	monoplane	morbid	molehill	organism	outsirt	overrate	oversensitiveness	numerical
obtrusively	opaque	optimist	organic	organism	physique	Porte	privation	propel
petulant	penitence	pertinent	pessimistic	physicist	ravage	reciprocal	rectitude	recourse
pursuance	quadruped	radius	ratio	ravager	retrogression	reversal	roadstead	satiety
regeneration	reparation	requisite	retainer	retrogression	reversal	recourse	recur	refuel
scurvy	serenity	solar	soluble	span (of life)	spontaneity	straddle	substructure	saturate
susceptible	tedium	terminus	theoretical	three	tillage	treacle	trigger	supercede
unequ. vocable	unparalleled	unprepossessing	unwanted	velocity	venerate	vicesitude	vicount	
volubility	weirdness							

## (25) 教授學習法の改善

基本語の確立により語學課程の言語材料の整理を行ひ、之を合理的に編成して其目標を明確にすると共に、従来の翻譯一點張りの教授法に改善を施す必要がある、逐字的翻譯に依る教授法の弊は各國語學者の均しく認むる所で、今尙此教授法を固守してゐるのは日本位のものである。現状打破の一方案として上級に於ては所謂 *silent reading* を加味するのも一方法であるかも知れぬ。

日本ほど中等、高等學校を通じて外國語學修期間の長い國は世界に多く其比を見ざるところであるが、其効果の擧らざる點に於ても亦同様であると思ふ。中等教育に於ける外國語の學修平均期間が二ヶ年<sup>(1)</sup>にも達しない米國に於てすら外國語教授廢止論が一部の識者間に擡頭した事實に鑑みても、我中等及び高等學校の外國語教授乃至學習法の改善は焦眉の急である。此方面の施設さへ宜しきを得れば、目下唱へられてゐる大學を卒業するに要する修業年限の短縮の如きは解決容易なることである。之れ外國語問題が單に語學教育に携はる者のみならず廣く識者の考慮を要する所以である。(昭和五年二月五日)

(1) Algernon Coleman: *Teaching of Foreign Languages in the United States.*

神戸商業大学教授  
ドクトル・オブ・フィロソフィー  
文部省英語教授顧問  
竹原常太編  
ハロルド・イー・パーマ  
發音擔任

# スタンダード英和辭典

大阪朝日新聞批評 先年スタンダード和英大辭典を編纂して

本當に苦心努力の立派な業績を世に示した神戸商大の英語教授竹原常太氏は今度また一般英語學生用の英和辭典を公刊した。型は小さいが内容は豊富で革表装シンペーパー刷三方ギルト寫眞應用の縮寫の印刷が鮮明である等體裁のよいばかりでなく、編纂の主義や方法にも吾人の意をえた點が多々ある。第一編者は數萬の語を収録すると同時に英文をかき英文を讀む上から必要な基本的な常用語をはつきりと標示した。普通世間で英語は三千語位を覚え込むと讀書作文共に自在とよくいふが、初學者には果してどの言語が普通によく使はれるかの見當が附かない。それにこれをはつきりと指示した辭書などがあるが、今まではなかつた。竹原氏は米國のソーンダイク博士やホーン博士が各五百萬語について入念に調査研究した結果選定した最も多く使はれる英語一萬を採り、これには符號を附けて明示した。各頁の下にそれを再記したが、開けば文部省あたりでやる英語の教科書の檢定もミスプリントを調べただけで標準英語の語數の檢査は全くやらぬらしい。現在の問題になつてゐる中等學校の英語教授時間數の如き先づこの標準語の教授方法を決定すれば樂に解決のできる問題ではあるまいか。この點に注意した竹原氏が辭書編纂の上には標準語を標示するといふ全く新しい方法をとつたことには誰もが感謝してよからう。それからこの辭書にはこれまで發行されたあらゆる英和辭書にない新語が澤山入つてゐること、パーマ教授が一つ一つ自ら筆をとつて萬國發音符を書入れたことなど特色として推獎すべきことが澤山にある。

## 八大特色

- 一、最新語學研究法による編纂。實に實際文例の歸納的研究を大成せる著者は、今、本辭典に於て標準英語の研究を加へて最新語學研究法を紹介す。
- 二、デヨーンズ式萬國音標。我が語學界の權威、パーマ氏がデヨーンズ式萬國音標に則り、其の蘊蓄を傾けたる本辭典の發音符號こそ、絶對的規準である。
- 三、熟語成句の豊富。常用熟語成句の譯語の明確とその豊富さは既成大辭典をも遙かに凌駕す。
- 四、新語と的確なる現代的譯語。新語の採録と、語句の現代的意義を的確に表現せる譯語とは著者の實際文例の歸納的研究による必然的結果である。
- 五、標準語と其重要順位。基本標準語一萬語には一々其重要順位を附す。學習者の自發的學習と教師の合理的指導とは之によつて始めて可能となる。更に卷末の標準語表は單語學習上多大の便益を與へ又實に副讀本の役をなすものである。
- 六、入學試驗單語問題の解決。本辭典により入學試驗單語の範圍は標準化せられた。従つて試験官の出題又受験者の準備に對して完全なる指針。
- 七、ポケット型。基本標準語の徹底的習熟のために携帶の便は缺くべからざる要件である。
- 八、印刷製本技術の極致。鮮麗なる印刷、瀟洒たる革装幀、堅牢無比の製本、而も定價の超特價的。

ボケツト型・二段組一千二百五十頁  
最上總羊革・純金箔押・三方純金附  
寫眞鋼凸版・インデアーパー使用  
定價 金貳圓八拾錢  
書留送料金拾六錢

東京市神田區錦町三丁目  
電話 三〇四〇  
電話 二〇五〇  
電話 七〇三〇  
電話 九三〇〇  
發行所 大所行發 店書館修大所行發

神戸商業大學教授  
ドクトル・オブ・フィロソフィー

竹原常太著

菊野千七百餘頁  
二段組六ポイント  
上質用紙印刷  
箱入全一册

定價金六圓

送料金參拾錢

# スタンダード和英大辭典

賣捌所 ▲ 全國各書店

◇商科大學教授 福田徳三博士曰く……

私は決心して一本を買ひ求めました。幸に學生が一緒でしたから、重たい本をかついで宅へ歸りました。そして驚きました。私の坐右には勿論、——も——も皆あります。較べて見て驚きました。……同時にあなたの本は一字一句あなた自らの非常の努力の費されてゐるものなる事を發見致しました。……驚異と云ふ文字は、私があるの本を見るまでは其の意義が判然してゐませんでした。私は眞に驚異の念に打たれました。……我々の専門方面でもこんな本が一冊欲しいのです。……こんな本が二三十冊も出たら、日本の學界は頓に面目を一新すると思ひます。……

◇「洞ヶ峠」の英譯に就て (東京日々新聞—昭和四年十一月廿四日)

幣原外相が米國大使への書翰に「洞ヶ峠」の英譯に首をひねつた揚句支那語の「騎橋」を思ひ出して、早速直譯“sitting on the fence”とやり、非常にいゝ言葉を使つたとて米國大使にほめられたと、貴紙の「餘録」で承知しました。然し米國あたりでは「洞ヶ峠」をさう書くのは別段新らしいことでなく、現に「ワイルド」紙や「アウトトルツク」誌が“sitting on the fence”を用ひてゐることは、わが竹原スタンダード和英辭典によつても、明瞭に分つてをります……以下略 (西村二郎)。

## 本書の六の特色

- (1) 現代英語の歸納的研究  
 總知|| 英米の文例蒐集三十餘萬之を歸納し更に五萬七千を選擇したもので……類書に其比を見ない所である。
- (2) 出典の明示と標準譯語の確立  
 東京朝日|| 一々出典を明示する等用意周到。  
 東京日日|| 竹原氏が其目的たる現代英語の標準確立に成功せるものと確信する。
- (3) 文例の豊富と正確  
 英語研究所報(文部省内)|| 文例豊富なるのみならず正確平易、直截、簡易なる現代英語……辭書編纂の一大革新……
- (4) 實社會の活文字—英米語の區別  
 東京時事|| ……英米人に分るを條件とするには此辭典を手本にすれば間違ない。  
 大阪時事|| 商業用語を豊富に取入れ英米語の差別を明示……新機軸を出してゐる。
- (5) 前置詞及後置詞の活用法  
 パーマ氏|| 一百頁に亙る前置詞の使用法を示した索引は彼の難問題とされてゐる英語前置詞の大研究の解決である。
- (6) 本書發行の國際的意義  
 大阪毎日|| ……かゝる辭書の出る事は和英兩語の媒介となると共に日本人と英語民族間の了解を成立させる……

昭和五年三月十日印刷  
昭和五年三月十五日發行

### 非賣品

著者 竹原常太

發行者 東京市神田區錦町三丁目十番地 鈴木一平

印刷者 東京市神田區美土代町二丁目一番地 横山喜助

發行所 東京市神田區錦町三丁目十番地 大修館書店

電話神田二七三九番

328

216

終

